

# 戦の記憶 写真でたどる

【糸満】県写真協会理事の宇久田全正さん(81)の写真展(主催・県平和祈念財団)が糸満市摩文仁の平和祈念公園案内所で始まった。4歳で沖縄戦を体験した宇久田さんが、摩文仁で自身が捕虜になった場所や平和祈念公園などを撮影した計17点を展示している。「平和のありがたさと二度と戦争をやってはいけないということ、県内のみならず県外の皆さんにも伝えたい」と来場を呼びかけている。

(社会部・富銘悠)

## 宇久田さん、平和祈念公園で展示

宇久田さんが摩文仁で捕ら1カ月半ほどかけて糸満虜になったことを知った同市や那覇市で撮影した。自財団の松川満常務理事から「ここで写真展を開いてほしい」と依頼を受けたのがきっかけ。写真は財団の協力を得ながら、昨年11月か

沖縄戦当時、首里金城町



「平和を永続させるための声を発信してほしい」と写真展に込めた思いを語る県写真協会の宇久田全正理事=10日、糸満市摩文仁・平和祈念公園の案内所

## 糸満・捕虜体験 現場など撮影

に住んでいた宇久田さんは家族8人で戦場を逃げた。摩文仁の崖下に隠れていると米軍から「山を焼き払う」と通告があり、壕を出た後に米兵に見つかって捕虜になった。途中で頭を下にしてあおむけになって亡くなっていた日本兵を見たが「恐怖とか、かわいそうという感情は湧かなかった。戦争というのは感情がまひしないと生きていけない地獄の世界だった」と振り返る。

写真にはそれぞれキャプションを付け、宇久田さんの体験や思いをつづった。平和祈念公園の「平和の火」を写した写真には、「皆さまが摩文仁の地で見たこと、感じたことを一人でも多くの人に伝えていただければ、それが平和の声となり、日本中に平和の大きな声のうねりとなれば二度とあのようなむごい戦争は起きないでしょう」と記した。

近年の防衛力強化の動きに不安を感じるという宇久田さん。「沖縄を二度と戦争に巻き込まないで。そのために戦争の危機をつくらない方向で外交を展開してほしい」と望んだ。

入場無料で4月10日まで。時間は午前8時半から午後5時半。  
写真展に関する問い合わせは同財団、電話0998(997)2765。